

## 平成 28 年度 西崎特別支援学校 学校評価 (保護者用) 分析・考察

- 1 昨年度の回答率が 74% だったのに対して、今年度は 68% に下がってしまった。保護者アンケートの実施時期や期間、方法に関しては、次年度に向けて検討が必要である。
- 2 保護者は、学校の教育活動について概ね満足しているように思われる。学年や学部間の移行期の引き継ぎ方法に関しては、昨年の指摘を受け改善してきたため、評価は少し上がってきた。しかし、教職員の指導・支援、情報の共有化や連携のあり方に関しては、昨年度同様、改善を求めている。また、目標の設定や教育活動、学習内容、進路指導に関しても情報不足だという指摘もある。  
これからさらに、学期末の保護者面談等で本人・保護者の意向を踏まえながら、子どもの実態や指導・支援のあり方、学習内容、評価等に関しても丁寧に説明し情報共有を図りながら、家庭と連携した指導・支援の見直しが必要になってくると考える。
- 3 行事や授業参観の持ち方に関しては、学校全体での取組として今後検討していく必要がある。  
また、進路指導については、「進路」＝「就労」ではなく、昨年度本校で研究した「キャリア教育」の視点で日々の教育活動の取組が行われていることを保護者にも説明していく必要性を感じた。  
給食指導に関しては、昨年度の指摘を受け、補助具等の活用や参観日における見本の展示等に取り組んだ。また、摂食指導や自立活動の指導について専門家活用研修において講師をお招きし、指導を受けたため改善が見られる。今後も保護者から信頼される教職員を目指して、専門性の更なる向上のため、研修の持ち方や内容の工夫等の改善をしていきたい。
- 4 教育相談に関しては、悩みを相談したい保護者が多く見られるが、なかなか相談しにくい状況が見えてきた。相談しやすい雰囲気や関係づくりを進めながら、各学部の校内支援係を中心に、保護者からの声を聞き取り、担任や学年、学部等で相談内容にできるだけ早く対応していく体制が必要である。そして、段階を経て教育相談や関係者機関との連携につなげていく取組が求められていると考える。